

## 乳がん検診のすすめ ～ガンがまだ他人のあなたに～

実は、現在、私たちのおよそ 2 人に 1 人が、ガンになります。そのうち 3 人に 1 人が、ガンで命を落としています。

ガンについて少し基本的な内容からお話すると、ガンは遺伝するといわれていますが、遺伝によるガンは 5% 程度と少ないのです。実はガンは、喫煙、食生活および運動などの生活習慣病です。しかし、どんなに生活習慣をしっかりと守っていても、ガンにかかるリスクを 0% にすることはできないのが現状です。

乳がんによる死亡者数を減少させるには乳がんにならないようにすることが一番ですが、まだ現在の医療ではガンにならないようにするのは困難です。

では、どうしたらよいのでしょうか？それは、「早期発見」することです。これこそが最大の治療なのです！では、「早期発見」するためにはどうしたらよいのか、そこで、検診が重要となります。

右の図から良くわかるように、早い段階で見つかり、治療を行った患者さんは治癒しています。すなわち、早期発見、早期治療することで、ガンも不治の病ではなくなり完全に治るということです。

ところで、「乳がん」とはどのようなガンなのか、ご存知ですか？

「乳がん」とは、文字通り乳房の中にある乳腺という組織にできるガンです。その発生にはエストロゲンという女性ホルモンが深くかかわっています。女性がかかるガンで一番多く 40 代後半の女性にもっとも多く発生しているガンなのです。罹患者は、年間に約 5 万人であり死亡者数は、年間 1 万人！その数は交通事故死のなんと 2 倍です。しかし、「乳がん」は、他のガンにくらべ、比較的治りやすいのも特徴です。

このことから、「早期発見」につながる『乳がん検診』の果たす役割の大きいガンなのです。

では、「乳がん」になりやすい人とはどのような人なのか、下記の表をごらん下さい。このような条件のあるかたは、是非、『乳がん検診』を受けることをお勧めします。

- 年齢（40 歳以上）
- 未婚の人
- 高齢初産の人（出産をしていない人）
- 初潮が早く、閉経の遅い人
- 肥満の人（閉経後）
- 血縁者に乳がんになった人がいる
- 良性の乳腺疾患になったことがある

●閉経後ホルモン補充療法・経口避妊薬使用経験のある

乳がんの罹患者数はこのところ増加傾向にあります。上のグラフのように日本の『乳がん検診』を受ける割合は、欧米と比べるとかなり低いといえます。

皆様も『乳がん検診』を受けることをお勧めいたします。検診については当院健康管理センターにて承りますので遠慮なくお問い合わせください。また、診察などのご相談は当院外科外来におこし下さい。

みつわ台総合病院 副院長 窪田 信行（日本外科学会 指導医）

※5月の健康教室は乳がんをテーマに行います。ぜひご参加ください。